

令和5年度 第4回 静岡市上下水道事業経営協議会 会議録

1 日時 令和5年11月10日(金) 13:30~16:00

2 場所 静岡市上下水道局庁舎 7階71会議室

3 出席者

(1) 委員(敬称略)13人出席/13人全体

鈴木会長、塩野副会長、馬居委員、狩野委員、竹内委員、橋本委員、濱田委員、  
原田委員、堀住委員、安井委員、山本委員、横澤委員、横山委員

(2) 上下水道局職員

渡辺上下水道局長、花村局次長兼経営管理部長、川崎経営管理部理事、  
星野水道部長、望月下水道部長、  
小林参与兼上下水道総務課長、柴上下水道経営課長、森本上下水道危機管理課長、川口お客様サー  
ビス課長、  
藤田参与兼水道基盤整備課長、石野水道管路課長、稲葉水道施設課長、浅井水質管理課長、瀧戸水  
道事務所長、新庄水道維持担当課長、角谷清水水道施設担当課長、山本葵北水道施設担当課長、  
大石参与兼下水道計画課長、石上下水道建設課長、大石下水道維持課長、戸塚下水道施設課長、  
森田参与兼下水道事務所長、山上葵・駿河浄化センター担当課長、難波清水浄化センター担当課長

(3) 協議会事務局職員

柴上下水道経営課長 外7名

4 傍聴者 なし

5 内容

(1) 開会

事務局から資料確認など

(2) 議事

令和4年度 施策等の進行管理

政策の自己評価説明・外部意見聴取

事務局から説明

**資料1 評価報告書(案)(政策評価シート)**

質疑・応答

(鈴木会長)

資料1の7ページの政策評価の欄のレイアウトについて、自己評価がR1、2を、外部評価がR3、4  
について評価しているように見えてしまう恐れがあるため、政策評価の位置を調整するなどして、分か  
りやすくしてほしい。

(事務局)

内容がわかりやすくなるようレイアウトを調整させていただく。

### (3) 報告事項

#### ① 静岡市清水地区水源検討部会の経過報告について

事務局から説明

#### 資料2 静岡市清水地区水源検討部会の報告について

質疑・応答

(鈴木会長)

わかりやすい説明だった。細かなところは割愛されていると思うので、ご質問、ご意見等あれば委員の皆様より頂戴したい。

(横澤委員)

緊急対策が完了し、流木、土砂の影響はなくなったが、通常の水取状況に影響はないのか。

(事務局)

流木、土砂の流入を防ぐ緊急対策の完了によって、取水口の稼働に影響はないと考える。

(横澤委員)

緊急対策の実施により、同様の被害が起きなくなり、不足水量の発生も抑制されたと思うがそのあたりはどうか。

(事務局)

今回紹介した緊急対策により、令和4年台風15号のような風水害で発生した流木等による取水口の閉塞という事象への対策をとった。ただし、水源検討部会でも、委員からの指摘により、別の事象で取水口が閉塞、あるいは、取水不能となる可能性についても指摘があった。渇水や河川水汚水等の事象により取水不能となった場合についても考慮した上での検討をしている。水源検討部会では、承元寺取水口は、1つの水源に依存する割合が高いことから、他の水源からの融通などを検討しているものである。

(横澤委員)

民間の井戸利用については、近隣工場等の影響により、使用が制限される場合がある。そういったことも考慮した上で検討していただきたい。

(濱田委員)

市域全体の水融通のところで、融通不可という地域があるが、そのような地区はどのように対策をしているのか。

(事務局)

同じ配水地区内で複数の水源があり、最大の水源が停止したとしても、配水区域の中で必要な水量をまかなえるという整理をしている。あくまで清水地区(南部)のみが水量が不足するものとしている。

(原田委員)

取水口の複数化については、これからの季節では渇水期の影響も大きいと思う。同じ興津川水系ということで複数化しようとする位置は渇水の影響はないのか。

また、海洋水の使用についても清水地区は港町ということで良い案かと思うがいかがか。

(事務局)

おっしゃる通り既存の水源と同一水系からの取水となり、濁水等の影響を受ける。リスク分散の観点からも、他の水源からの融通も含めた案の検討を次回第4回検討部会へ向け、進めているところである。

海水淡水化については、費用やコスト面を考慮し、部会では非選定としている。

(鈴木会長)

水源検討部会に出席をしている。海水淡水化に関しては、莫大な費用がかかり今回の部会では非選定としたことは理解しているが、甚大な災害が頻発している日本においては、海水淡水化の方法の検討、調査を静岡市としても進めておいてほしい。福岡や沖縄では、国からの補助により実施している。

(竹内委員)

いまある水源について、施設の耐用年数がどのような状況にあるのか。長期的な視野では、ほかの水源の寿命が来てしまったりすると状況が変わることも考えられる。次なるリスクも検討してほしい。

(事務局)

新たに検討した水源案では、施設や土木躯体など種類により違いはあるが、耐用年数があるため、建設費用だけでなく維持管理費用や更新費用も考慮している。

(竹内委員)

本質とはずれるが、10年後、30年後は同じような状況になるかはわからない。先ほど出たような海水淡水化が清水地区から静岡地区への融通を可能にするようなことがあるかもしれない。そのような状況も含めて検討してほしい。

(鈴木会長)

そのあたりとても重要と考える。水源検討部会においては、他の地区は当面は大丈夫という前提で進めているので清水地区限定での検討でよいと考える。しかし、将来においては、長期的な観点からも様々な検討を進めていく必要がある。

(狩野委員)

井戸の利用について案が挙がっているが、話題になっている清水地区での化学物質（PFAS）の影響に対し対策を講じる必要があるのか。

(水質管理課長)

この件については、11月8日の市長会見でも説明しているとおりだが、現在は三保地区においての地下水の汚染ということとなっている。水道水の水源となっている興津川の水については、順次水質検査を実施している。検査により暫定目標値の基準以下となっているので安心していただければと思う。

(鈴木会長)

今後の流れについて、今月末に第4回水源検討部会を実施し、一定の結論が出ると思うが、経営協議会に示していくスケジュールについて教えてほしい。

(星野水道部長)

11月末の第4回水源検討部会で最適案の決定をする。1月の第5回経営協議会でその案について提示をする。

(鈴木会長)

その後市議会等を含めた財政的な面についてのスケジュールは決まっているのか。

(上下水道経営課長)

市として最適な手法を決定していくのと同時並行で、借入金なのか、一般会計からいただくのか、水

道料金に転嫁させるのかなど、様々な選択肢の中から財源の調達方法について、市長部局とも協議を進めていく。水道料金にも関わることから、委員の皆様からご意見をいただきながら調整をなるべく早く進めていく。

(鈴木会長)

災害はいつ起こるかわからないため迅速な意思決定が求められる。可能であれば、市としての方針を1月に示してもらえば、建設的な議論ができるかと思う。

(鈴木会長)

今日の説明はわかりやすかったが、水源検討部会等の経過等については、清水地区の地元住民からの知りたいというような声はないのか。まだ経過報告のため、案が固まった段階のほうがよいかも知れないが、情報公開の観点からも、報道機関による報道だけでなく、積極的に知らせていく方法も検討してはどうか。

(星野水道部長)

水源検討部会については、公開で実施し、HPにも公開している。情報発信としての公開方法については、今後検討したい。

## ② 令和6年度上下水道局当初予算編成の考え方について

事務局（上下水道経営課）から説明

### 資料3 令和6年度上下水道局当初予算編成の考え方について

(鈴木会長)

資料3 9番目の官民連携の取組みについて簡単にどんなものか教えてほしい。

(上下水道経営課長)

社会のみんなの力を集め、施策に反映していくという新市長の考え方を踏まえ、上下水道局としても、民間の力や叡智を借りながら事業を展開し、効率性を高めていくことを重点項目として位置付けている。

その他質問事項については、別紙資料6にていただく。

(4) その他

## 静岡市下水道100周年記念のつどいにて実施予定だったプログラム

(1) 静岡市の下水道のあゆみ

(2) 職員による発表～どうする静岡市の下水道～

(5) 連絡事項

資料4 第3回協議会議事等にかかる御質問・回答、御意見まとめ

資料5 「政策外部評価」意見記入用紙

資料6 第4回 静岡市上下水道事業経営協議会 意見記入用紙

【事務局】

・資料5及び資料6は、令和5年11月20日（月）までに事務局宛て提出いただきたい。（資料5の「外部評価」は必須、それ以外は任意）

確認

静岡市上下水道事業経営協議会会長

（署名） 鈴木 学